backlog by nulab 導入事例集

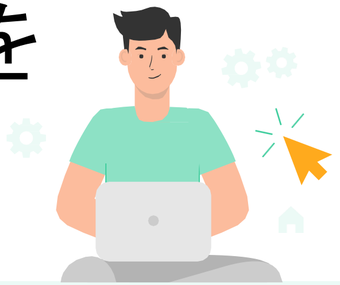
コミュニケーションの課題解決 編



nulab

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

メール・電話コミュニケーションの課題を backlog で解決！



| Backlog導入前 |

課題		Backlog導入後	
課題 1	「今どうなっていますか？」を 頻繁に確認しあう プロジェクトの進捗、問題やリスクがないかの確認が頻繁に必要。	効果 1	「誰が」「何を」「いつまでに」 業務のステップ・タスクの見える化 期日や担当者が明確になるため、目標や締切り達成がスムーズです。
課題 2	必要な情報を探すのに、 その都度返信履歴を遡る メールは通知に気づきにくく、返信の繰り返しで情報を探すのが手間。	効果 2	タスクごとの会話とファイルで 探す時間も短縮！ タスクの情報 / 会話 / ファイルをあちこち探す必要がありません。
課題 3	やりとりは基本 1 対 1、 情報共有不足やタイムラグが発生 リアルタイムの情報共有ができず、メンバー間に情報格差が発生。	効果 3	複数コミュニケーション。 スムーズな情報共有、意見交換も可能 情報が分断されず、メンバーが共通認識をもって作業できます。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

導入事例 | CASE 01

コニカミノルタジャパン株式会社

非効率なメールを50%削減。
タスクの可視化でサイトリニューアルプロジェクトが成功！

グローバルWebサイトのリニューアルプロジェクト管理にBacklogを採用したコニカミノルタジャパン株式会社。
Backlog導入でメールコミュニケーションを50%削減することに成功。
また「担当者」「締め切り」の可視化で、遅延タスクに対する早期リカバリなど、効率的なプロジェクト運営を実現しました。



業　　種：電気機器メーカー
利用部門：マーケティングサービス事業統括部 Webプロダクションチーム

コニカミノルタを親会社にもつ、コニカミノルタジャパンは複合機（MFP）・プリンター、印刷用機器、ヘルスケア用機器、産業用計測機器などの販売、並びにそれらの関連消耗品、ソリューション・サービスを展開している。

	Backlog 導入前	Backlog 導入後
情報共有・コミュニケーション	■ タスクが多いプロジェクトにおけるメールコミュニケーションの限界 ■ メンバーの異動・育児休暇・退職など、情報や知見の共有・蓄積ができない	■ メールの総量は体感値で50%削減 ■ 属人化してしまう情報や知見を共有・蓄積でき、事業の継続性に寄与
進捗管理	■ メールからタスクを取り出し起票するエクセル管理の負担が大きい ■ タスクの担当者・締め切りが可視化できておらず、作業負荷の偏りが発生している	■ エクセル管理からの脱却 ■ スケジュールと担当タスクの見える化 ■ プロジェクト内の残課題や期限切れが一目でわかる ■ 遅延タスクの早期アクションで効率的なプロジェクト運営の実現

KONICA MINOLTA

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

“プロジェクト遅延が解消され、コミュニケーションも効率化できました”





Backlogはメールと比較して、コニカミノルタの事業の継続性という面でも高い効果を発揮している

Backlog導入前は、どのような問題が起きていましたか？

Webサイトのリニューアルプロジェクトは、タスクも関係者も相当数になります。当時は、メールの件名でタスクを分けて、各タスクの進捗とプロジェクト全体の進捗状況を切り出し、エクセルにまとめ直す作業を行う専任者が存在していました。

また、作業負荷の偏り、担当者不在のタスク発生などによって、プロジェクトの円滑な進行が妨げられていたのです。

様々なタスク連携が必要なプロジェクトをメールベースで管理することは「非効率なプロジェクト運営」となり、大きな課題でした。

課題はBacklog導入後にどのように改善されましたか？

Webサイト制作に関するすべてのコミュニケーションをメールからBacklogに移行したところ、情報共有の格差、タスクの起票漏れによる“プロジェクト運営の乱れ”が解消されました。

課題ベースで各作業の進捗管理するようになったことで、進捗を確認するためのやりとりをする必要がなくなり、メールの総量は体感値で50%削減できました。コミュニケーションを効率化できたのはとても良い効果でした。

Backlogにタスクや情報を集約できたことで、プロジェクトマネジメントのためのエクセルの課題管理表をBacklogに置換することもできました。メールからタスクを取り出し、まとめ直す専任者も不要になりました。

エクセルにはないBacklogの機能として、プロジェクト内の残課題や期限切れ課題が一目でわかること、期限切れの課題のアラートメールが届くのが良いですね。

Backlogにタスクやノウハウなどの情報を集約できるようになったことで、引継ぎの手間は解消されましたか？

メールベースの管理手法は、プロジェクトチームが解散すると、後から似たプロジェクトが立ち上がったときに情報を吸い上げるのが困難で、ノウハウの共有、事業の継続性にも影響が出ていました。

具体的には、メンバーが異動・育児休暇・退職などの理由で職場を離れていると、個々人のメールボックスに保存されているメールを追えないということが起こります。 Backlogなら、アカウントが削除されても会話や対応履歴が残るので、ノウハウの共有、事業の継続性という面でも効果を発揮しています。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

導入事例 | CASE 02

株式会社アダル

無駄なメールリレーはゼロ！　老舗業務用家具メーカーのデジタイゼーション

Backlogを社内のシステム基盤とした株式会社アダル。
定例会議は導入前の25%にまで削減、アナログ業務のデジタル化・部署間コラボレーションが加速しました。海外販路拡大のための新規ブランド立ち上げにおける部署間連携のワークフロー構築にもBacklogを活用しています。



	Backlog 導入前	Backlog 導入後
情報共有・コミュニケーション	■ 電話でのタスク共有による認識齟齬の発生 ■ メールにおける読み忘れ、過去の履歴を検索する手間	■ コミュニケーションミス減 ■ 度重なる確認が減り、定例会議は導入前の25%にまで削減 ■ 分散する情報の共有、メンバーが共通認識をもてる
進捗管理	■ 内容変更・期限の調整などエクセルによる情報更新に手間がかかる ■ 修正更新のためのコミュニケーション、多い時で1日20件のメールリレーなど、情報共有がスムーズでない	■ スケジュールと担当タスクの見える化 ■ 1日20件発生していたメールリレーを効率化。 ■ タスク間の連携がスムーズになった

業　　種：業務用家具メーカー
利用部門：IT事業室、経営企画室、
企画開発室、営業本部
（広報 / PR、アートディレクター、
プロダクト制作、セールス）

1953年に創業された福岡発の業務用家具メーカー。国内には15拠点、海外では中国に提携会社として生産工場をもっており、福岡にも総合工場があります。社員数288名で、そのうち120名が工場勤務、120名が営業、40名がプランニング・経営企画・管理部となっている

はたらく家具をつくる
ADAL
ADVISER FOR AMENITY LIFE

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

“部署間の業務遂行やチーム連携がとてもうまくいくようになりました”

Backlog導入前は、どのような問題が起きていましたか？

業務に関する情報を一元管理し、情報に素早くアクセスできるツールがなかったため、タスクの重複、遅延、自然消滅が多発していました。

拠点間のタスク共有を電話で行うということもあったのですが、電話でのタスク共有は「言った・言わない」などの、コミュニケーションエラーが起きやすい状態になっていました。

そのほか、エクセルで作成した工程表の修正対応や進捗管理にともなうコミュニケーションに半日かかることもあり、データ管理に時間を費やさざるを得ない状況を改善したいと考えていました。

Backlog で業務上のコミュニケーションをするようになって変化はありましたか？

Backlog 導入前は、業務コミュニケーションにメールを使っていました。1 日に 20 件もメールで修正依頼をしたり、複数のエクセルデータを送付したりすることが日常茶飯事だったので、過去のメールのやり取りを検索するのが手間になっていました。

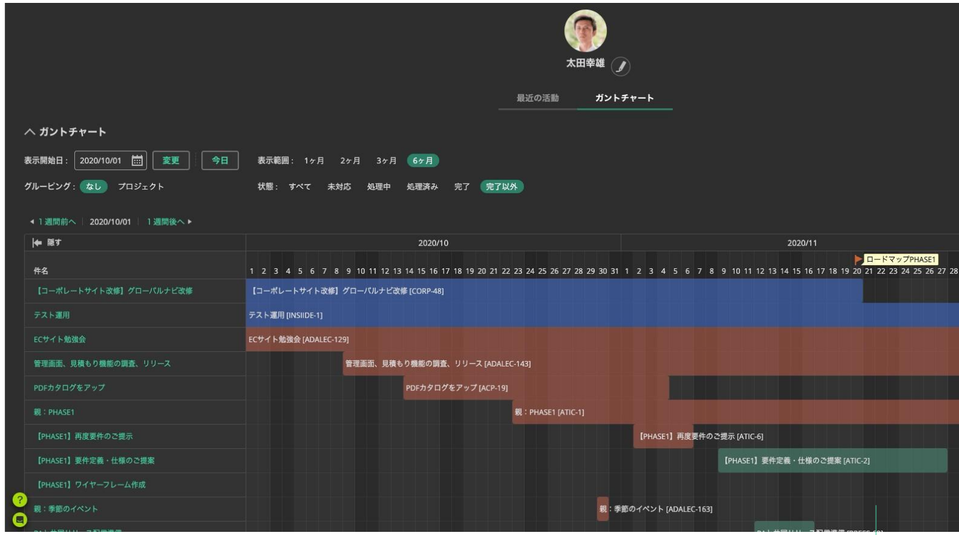
Backlog を導入し、仕事やタスクベースでコミュニケーションを進めることになったので、メールのように情報が散在するということはなくなりました。

情報共有についても、メールだと確認しない人が一定数発生してしまい、実際に確認してくれたのかどうかがわからないという問題がありました。Backlogには通知機能があって、相手が内容を確認した場合アイコンにチェックが入るので、「情報が伝わっていることがわかる」という安心感があります。

Backlog を導入して起きた業務マネジメントの効果について教えてください。

タスクの優先順位を明確にできるようになり、経営層からタスクを依頼されたときに、自分のタスクの逼迫状況やプロジェクトの進捗を建設的に説明できるようになりました。

Backlog のガントチャートをアダルの EC サイトの構築プロジェクトで活用しているのですが、社内のマネージャー陣から「各人の業務対応状況が可視化されて、何に詰まっているのかわかりやすくなった」という声もあがってきています。





経営企画部IT事業室の太田幸雄さんの1ヵ月間のタスク状況を一見できるガントチャート。
Backlogは個人の業務対応状況をタイムラインで確認できる

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

導入事例 | CASE 03

経済産業省

事務作業を3分の1削減！ 経済産業省のデジタル・トランスフォーメーション

行政サービスのデジタル変革を推進する経産省の「デジタル・トランスフォーメーション室」。システム開発プロジェクトにおけるベンダーとの課題管理やコミュニケーションにBacklogを採用。メールのやりとり、分散しているファイルの確認など事務作業が3分の1削減され、行政サービスの更なる向上に取り組んでいます。



	Backlog 導入前	Backlog 導入後
情報共有・コミュニケーション	■ メールの情報整理・過去の履歴を検索する手間 ■ メール件名で内容が把握できないことによる非効率さ	■ 無駄なメールが減り、過去の履歴を探す時間が減った ■ メールによるコミュニケーションの齟齬がなくなる
進捗管理	■ 内容変更・期限の調整などエクセルによる情報更新に手間がかかる ■ 問合せメールの対応漏れを確認するのが煩雑	■ スケジュールと担当タスクの見える化 ■ 問い合わせの対応漏れがなくなる

業　　種：官公庁
利用部門：経済産業省、中小企業庁、
　　資源エネルギー庁

2018年7月に経済産業省内に立ち上がった「経済産業省デジタル・トランスフォーメーション室」。事業者向けの行政サービスのデジタル化を進める部署として、省内のデジタル化を推進すべく、基盤システムや業務改革を担当する部署と連携して、行政手続きやバックオフィス業務のデジタル化に積極的に取り組んでいる。

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

“メールによるコミュニケーションのストレスが劇的に改善しました”

導入前の課題管理で起きていた問題について教えてください

1つ目はベンダーから提出される課題管理表の標準化です。課題管理表のフォーマットが定まっておらず何度も確認を要求されたり、タスク管理の進め方をすり合わせる必要があったりと、準備にかなり時間を要していました。

2つ目は、課題管理表と進捗管理表（WBSなど）の複数ファイルが散在していることです。過去のメールを遡って確認する作業が手間でした。

3つ目は、メールに添付されたzipファイルの解凍とパスワードメールの検索に費やす工数です。ベンダーによっては課題管理表をメールで送るときにzipファイルに圧縮して暗号化し、さらにパスワードを別メールにして送付されていました。

Backlog導入は、メールコミュニケーションにも効果がありましたか？

ベンダーとのメールのやり取りは、気が付くと件名が「Re:Re:Re:Re:」で続き、件名だけではどの案件か判別できないことが頻発していました。

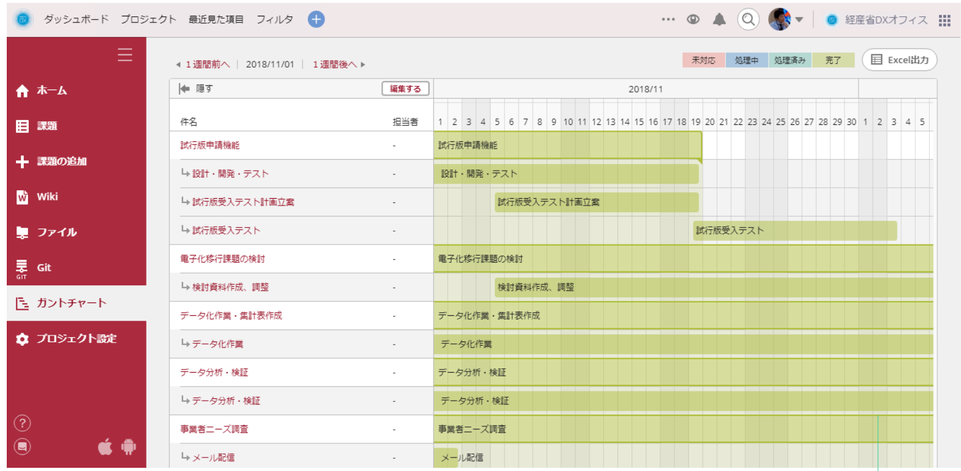
Backlogでやり取りできるようになったことで、メールの情報整理や探索に費やす時間が劇的に減りました。

ベンダーからの問い合わせの対応状況もBacklogで見える化できたので、解決済みなのか未対応なのかが一目でわかるようになりました。ベンダーからも「仕事がやりやすくなった」という声をもらっています。

また、 Backlogで他部局の担当者とベンダーで直接やり取りするようになり、余計なメールのやり取りなどコミュニケーションのストレスも減りました。

Backlog導入による定量的な効果について教えてください

全てのベンダーの課題管理表のフォーマットが標準化でき、ファイル管理の手間が省けたことで、事務作業が時間にすると1週間で90分、体感値では3分の1ほど削減できました。





経済産業省のデジタル化プロジェクトでベンダーと実際に使用しているガントチャート

それに加えて、課題管理とガントチャートが紐づいているので以前のようにWBSなどの表を用意してもらう手間もなくなりました。

また、Backlogでファイルを管理することで、暗号化せずともベンダーとのファイルの共有もスムーズになりました。実際にアクセスするときは、各ID/パスワードで認証されている方のみが閲覧できるなどアクセス管理もできているのでセキュリティ面でも安心です。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

導入事例 | CASE 04

パシフィコ横浜

テレワークでもその場にいるような対応、情報共有と進捗管理の問題をBacklogで解消！

感染症対策として全社的にテレワークを導入しているパシフィコ横浜。社内のコミュニケーションのメインツールをメールからBacklogとチャットツールに移行し、コミュニケーションの迅速化や情報共有や引継ぎもスムーズになりました。Backlogによるデータベース型のタスク管理で必要な情報にすぐアクセスできる仕組みが整いました。



	Backlog 導入前	Backlog 導入後
情報共有・コミュニケーション	■ １日100通以上のメールが溜まってしまい、処理に追われる ■ リアルタイムと同様な対応が必要な業務で、タイムラグが発生 ■ 情報が属人化し、業務のノウハウやナレッジが共有されない	■ 非効率なメールでのやりとりの削減 ■ 情報やファイルが散逸していないので、必要な情報にすぐアクセスできる ■ 異動があっても引継ぎが簡単、ノウハウも蓄積できる
進捗管理	■ 内容変更・期限の設定などエクセルによる情報更新に手間がかかる	■ スケジュール管理が簡単、急な変更にも迅速対応 ■ 進捗状況の可視化でテレワークでも生産性を保てる

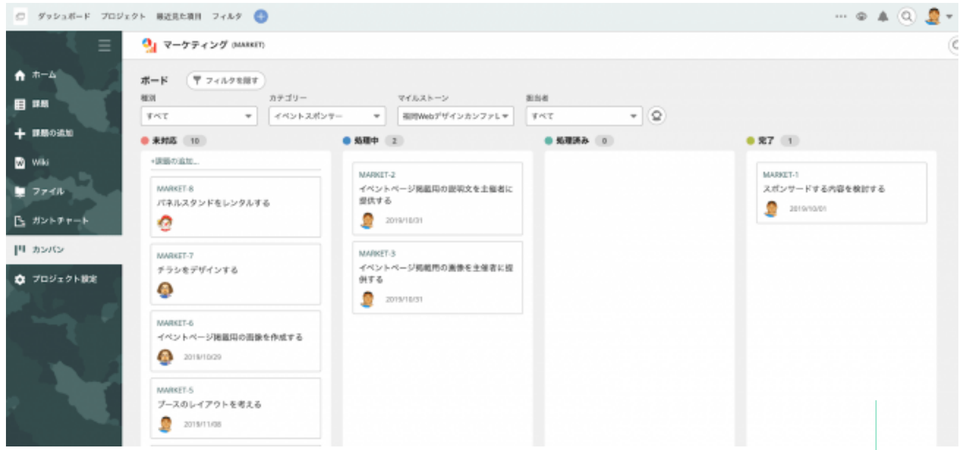
業　　種：会議施設、展示施設、催事場運営・管理
利用部門：**営業推進部、総務部・広報チーム**

政府系会議や学術会議、各種コンサートやイベント、展示会、ホテルからなる複合MICE施設の運営をする企業。 1991年に会議センターと展示ホール、ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテルが最初に完成。続けて国立大ホール、アネックスホールなどの施設を完成させ、現在では、公共駐車場や緑地・広場などの施設も運営・管理している

パシフィコ横浜

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

“手帳やふせんに変わる最適なタスク管理ツールです”





付箋的に使えて視覚的に分かりやすいカンバンボードも活用

―― 個人のタスク管理を手帳やふせんなどで行っていたとのことですが、そこで起きていた問題について教えてください。

手帳やふせん、と言うと大げさですが、個人個人が“共有機能の無いツール”でアナログ的なタスク管理を行っていると、チームメンバーの業務を可視化する、といった運用が難しい状況でした。そのため、「履歴が残らない・担当者がわからない・期日がわからない」という問題も起こりがちで、タスクの進捗やマイルストーンの可視化が求められていました。

また、社内外の案件のコミュニケーションはメールで行っていましたが、メールの場合、1日放置していたら100通以上処理しなければいけない状況が発生し、最適なツールとは言えませんでした。

―― テレワークでのコミュニケーションはどのように進めていらっしゃるのでしょうか？

テレワーク下でリアルタイムでのやり取りが必要なとき、メールのみの運用では限界があります。

そのため、社内のコミュニケーションはBacklogとビジネスチャットツールを併用しています。

Backlogではタスク管理・進捗管理のコミュニケーションを行い、チャットはリアルタイムで話し合いたいことや気軽な相談などに使っています。

広報チームでは、Facebookページの投稿の連絡をメールやExcelでやり取りをしていて大変煩雑でした。Backlogを導入後は投稿内容ごとの期日設定や情報管理が明確になったので助かっています。

課題のトップには関連する基本情報を入れるようにして使っています。課題ごとの基本情報が把握しやすく便利です。メインの担当者以外のチームメンバーとも随時情報共有ができるのもありがたいですね。

―― タスク管理がチームに習慣化するとナレッジを蓄積できると思うのですが、このあたりの変化や効果はありましたか？

事務系の社員にジョブローテーションはつきものですから、異動がかなり多い環境です。

業務の引継ぎ時に、異動する人と引き継ぐ人だけの閉じたやりとりだとノウハウの蓄積が難しかったのですが、Backlogの課題管理やWikiを使った文書管理で、情報の「ブラックボックス化」や属人化を防ぐのに大変有効だと感じています。

情報をBacklogに記録することで社内にナレッジシェアの文化を根付かせていきたいです。

※今後Backlogでは、「Wiki」で提供しておりましたナレッジ共有機能を「ドキュメント」に集約してまいります。詳しくはこちらをご覧ください。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

導入事例 | CASE 05

A&A法律事務所

事務作業を3割も削減！Backlogへの情報集約で、情報の属人化を防止

企業法務のDX化を推進し、企業の法務顧問を務めるA&A法律事務所。
契約書作成・業務管理情報をBacklogで一元化。顧問先の契約書作成に関する事務連絡の時間を3割削減することに成功しました。
また情報の属人化が解消され、産休復帰後のメンバーへの情報共有もスムーズ、操作画面が分かりやすいのも魅力です。



A&A 法律事務所 × backlog by nulab

	Backlog 導入前	Backlog 導入後
情報共有・コミュニケーション	■ 顧客とのメールのやりとりで情報が属人化 ■ 担当者が変わると情報の引継ぎがうまくいかない ■ メールで事務連絡時間がとられる	■ リアルタイムの情報共有、必要な情報に最短でアクセス ■ 産休や育休を取得しても情報共有が円滑で復帰しやすい ■ 事務連絡の時間を３割削減
進捗管理	■ 顧客案件数が多いため、前回までのやりとりの把握などに時間がかかる ■ 各作業の見積時間と実績時間の記録の際、項目の細分化がしづらい	■ 案件ごとの内容把握・現在の業務のステータスがすぐにわかる ■ タスクを複数に分割できるので、各タスクの工数把握・業務の定量化がしやすい

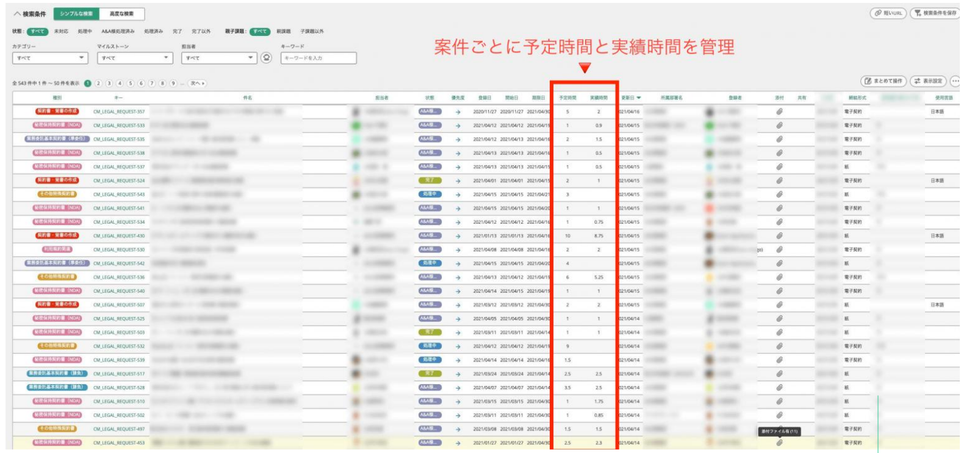
業　　種：士業
利用部門：法務顧問先企業の営業部門・管理部門と利用

企業間の契約手続きや、企業の法務担当者の規約相談、業務コンサルを行う。企業間のやり取りで紛争を防ぐのが主な目的の「予防法務」があり、有事の際に問題が起きないように顧問先の企業にこのスキームを作っている。そのほかに、企業法務のDXコンサルも行っており、クラウドサインの導入やBacklogを使った契約書管理の提案も行なっている

YOUR ANSWER & ACCELERATOR
A&A 法律事務所

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

“レビュー前後の事務連絡は、3割以上は削減されているイメージです”





タイムチャージ式で案件を管理しているため、予定時間・実績時間を管理している

顧問先のクラスメソッド様とBacklogを使って契約書の管理を進めていらっしゃるそうですね。

Backlogを利用する前はメールや別のツールでタスクを管理していましたが、顧問先企業が増えて契約書のレビュー依頼も増えたことで管理が難しくなりました。

現在は顧問先のクラスメソッド様の契約書準備や法務相談でBacklogを活用しています。

契約書の一連のやりとりに①利用規約、契約書、覚え書きを新規で作成する②既存の契約書の内容をレビューするという業務がありますが、そのうち契約書の作成とレビューをBacklogの課題経由で依頼を受けています

Backlogを使った具体的なワークフローについて教えてください。

最初にクラスメソッド様の営業担当が起点となって契約書作成の課題をBacklogに登録します。登録がされると、私宛に契約書のレビューや作成の依頼が届きます。

その後私どもA&A側でどれくらいの作業時間を要するのか見積もります。見積もりが済んだら、契約書の雛形を営業担当者に渡し、作業を進めます。

Backlogでは課題の担当者を1人設定することができます。A&A側で対応を進めているときは、担当者をA&Aにして、課題の状態を「処理中」に変更しています。課題の担当者を都度変更することで、どちらが作業のボールを持っているかがすぐ分かるように、進めています。細かいタスクも漏らすことなく、素早く消化できるようになりました。

Backlog導入の効果を定量的に教えてください

契約書の内容をレビューする工数は変わりませんが、依頼内容の確認や、前回までのやり取りの把握などのレビュー前後の事務連絡に関しては、3割以上は削減されているイメージです。

A&Aはクライアントとの契約形態がタイムチャージ式なので、各作業でどれくらいの時間を要するのかというのも記録しておく必要があります。この辺りは、Backlogの見積もり時間と実績時間の項目を活用して、作業にかかった時間を必ず記録するようにしています。

おかげで、契約書レビューの登録から完了までにどれくらい時間がかかっているのかを定量的に可視化できているだけでなく、各タスクにどれくらい時間がかかったのかを課題で一覧的にクライアントに報告できるので助かっています。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

オンラインセミナー・トライアルのご案内

本資料をご覧いただき、メールや電話などのコミュニケーション課題を解決したいと考えた方は
是非、Backlog の無料オンラインセミナーや無料トライアルをご利用ください



オンラインセミナーの概要

- ☑ プロジェクト・タスク管理のBacklogとは？
- ☑ Backlogでどんなメリットがあるの？
- ☑ 実際のBacklog画面を見ながら利用シーンを紹介

開催スケジュールはこちら



トライアルの概要

- ☑ 30日間無料で利用できる
- ☑ フォームに情報を入力すると、すぐに開始
- ☑ プランの全機能が使える

無料トライアルはこちら

サービスページはこちら

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

会社概要

社名	株式会社ヌーラボ
設立	2004 年 3 月
事業内容	チームのコラボレーションを促進するサービスの開発・提供 ● プロジェクト・タスク管理ツール『Backlog』 ● オンラインホワイトボードツール『Cacoo』 ● ヌーラボ製品のセキュリティ＆ガバナンスを強化する『Nulab Pass』 ● ワークフロー自動化ツール『Nulab Flowbase』
本社	福岡県福岡市中央区天神一丁目 11 番 1 号

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.